

3学期も終わりを迎えようとしています。1年生は今ではすっかり学校生活を自分たちのものにして楽しんでいるようです。今年度も保育園、幼稚園の園児と小学生の交流体験が各地域で高まりを見せていました。また、保育園、幼稚園、小学校では、卒園、進級、就学の準備に余念なく取り組んでいると思います。さて、今号では、年長児の就学に際して、保幼小が連携して学習環境を整えていくことがいかに大切であるかを考えてみました。

## 就学に際しての情報連携「保幼小地域連携協議会」によって… ～入学後の学校生活がスムーズにスタート！～

大田区で組織的に開催される、入学に向けての地域連携協議会では、各園から多くの情報が寄せられます。環境の整備をする上で、大切な取り組みに位置付けられています。

新入生を受け入れる小学校側では、多くの情報があることで戸惑いもあるようですが、友達関係や、集団生活への意識など個々に育っている面が捉えられ、1年生担任からも学校生活への移行がスムーズにできたという声が聞かれます。

情報交換を密にしていくことで、お互いの機関での生活や意図の理解が深まり、交流・連携への意識が自然に高まっていく良さを感じます。今年度の情報連携会議は、2月13日(木)に入新井ブロックからスタートし、区内14地域で開催されました。

小学校：個々の幼児の様子を丁寧に聞きとめていくことで入学時の学級運営がイメージしやすくなりました。



<保幼小地域連携協議会風景>

保育園・幼稚園：生活面、運動面、人とかかわり、興味関心や遊びの様子など、園での成長の様子を細やかに伝えることができます。安心して年長児を小学校に送り出すことができますね。



## 先生方による情報連携をきっかけに親近感が高まって… ～園児と小学生の交流が広がる～

「羽田小フェスタにお招きいただいてうれしかったです！！」

弁天橋保育園、羽田保育園、羽田空港アンジュ(認証保育所)の年長児が参加し、小学校の各学年や学級で子どもたちが考え出したゲームや遊び、地域の方のゲートボールなどを楽しみました。この交流体験で園児は、小学校をより身近に感じることができました。また、小学生達は遊び方を優しく教えてあげたり、園児に合わせて、遊び方を変化させたりするなど、年下の子たちに配慮した動きで楽しさを演出することができました。

<1年生の輪投げ>



「こうやって投げてごらん。」  
優しく支える1年生

<5年生の宝探し>



「宝物が見つかるまで頑張つて。」園児に寄り添う5年生

<6年生のフリースローゲーム>



「この線から投げていいよ。」  
園児の目線に合わせる6年生

情報連携で園生活と小学校生活の連続性が再認識されて・・・  
 ～幼児期の豊かな体験が意欲的な学校生活につながる～

小学校におじゃまして、授業を参観させていただくと、幼児期の特性を残して入学してきた子どもたちにも、着実に学ぶ力を身に付けている様子を見ることができます。情報連携会議で就学前の育ちの姿を小学校に伝えていくことで、指導上の配慮が整い、いきいきとした学校生活を営むことにつながっているのでしょう。一方で、「様々な力の基礎を培う幼児期には、発達に即した豊かな体験の積み重ねが大切」との思いが新たになります。

【幼児期に自ら環境に働きかけ、心を揺り動かした体験が、小学校以降の学ぶ力を培う】

友だちと思いを伝え合う体験

のびのび表現することを楽しむ体験

少し難しいことをやり遂げていく体験

興味関心のあることを十分に楽しむ体験

遊びを通した様々な感情体験

幼児期の豊かな体験

自然と触れ合い、五感を通して感じる体験・・・など

主体的な学校生活を営む力に

自分なりに考えたり、試したりする



<2年生 生活科「風で動く車」>

「風を受ける羽を大きくしよう。」「羽をたくさん付けてみよう。」など試行錯誤を繰り返し、考えを深めています。試してみて、失敗したり、成功したり・・・などの幼児期からの体験の積み重ねが生かされているようです。納得するまでやってみようという姿勢は、次のステップへの挑戦につながっているようです。

学級で1人で発表する



<1年生 国語科「私の好きなもの」>

話し方のスキルを学び、大きな声で自信をもって話しています。自分の好きなもののイメージがはっきりもっています。幼児期に培われた豊かな感性を教師に受け止められることで、さらに学習意欲が高まり、力を発揮していくことでしよう。

難しいと思うことでもあきらめずチャレンジする



<算数科「計算博士テスト」>

学級の仲間が見守る中で、できたという喜びを友だちと一緒に味わっていました。どの子も自分のペースでしっかりやり遂げることができます。達成感や満足感、喜びの共感など、幼児期からの体験の積み重ねがあることで、課題を受け止め、自分なりに見通しをもって取り組むことができますね。



<体育科「長縄チャレンジ」>